

そよ風



Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています



- アレルギー外来のご紹介
- 「乳がん」と「遺伝子」の最前線
- 患者さんの足を守る!
- 医学生の外來診療参加型実習について
- 乳がんの早期発見にむけて
- 専門看護師・認定看護師の活動について
- 新たな診療体制の構築へ(乳腺外科)
- ハイブリッド手術室をリニューアル!



アレルギー外来のご紹介

アレルギーは、花粉やハチの毒、ペットのフケなどの異物、多数の人は反応を起こさない食べ物や薬品などに対して、免疫系が反応することで起こります。免疫系は抗体として知られる物質を産生します。アレルギーを起こすと、免疫系は抗体を作り、特定のアレルゲンが有害でないにもかかわらず、有害であると認識します。アレルゲンに接触すると、免疫系の反応により皮膚、副鼻腔、気道、消化器系に炎症が起こります。

アレルギーの重症度には個人差があり、軽度の炎症からアナフィラキシー(生命を脅かす可能性のある状態)までさまざまです。ほとんどのアレルギーは治りませんが、治療によってアレルギー症状を和らげることができます。お困りの場合は当科へご相談ください。

(皮膚科 高市 美佳)



プリックテスト

食物アレルギーや花粉・ダニアレルギー(即時型アレルギー反応)の診断時に使用します

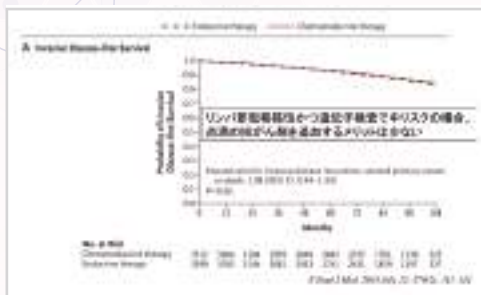


パッチテスト

接触皮膚炎(かぶれ)を起こすタイプのアレルギー(遅延型アレルギー)の診断時に使用します



「乳がん」と「遺伝子」の最前線



「乳がん」は世界で女性が最もかかりやすい「がん」ですが、その約1割が遺伝性と言われております。遺伝性乳がんの場合、治療法や検査の方法が異なることがあるため、遺伝子検査を行うことが重要です。検査方法は通常の採血検査と同じで体への負担は大きくありません。

また、残念ながら標準的な治療では一定の効果が見込めなかった場合、次に適切な薬剤を見つけるために遺伝子検査を行うことがあります。次の治療につながる可能性は1-2割ほどですが、このようなところにも遺伝子が関わってきています。

さらに乳がんの治療において、再発予防の観点から術後補助療法というものが必要で、遺伝子検査により抗がん剤の点滴が必要かどうかも分かるようになってきました。

今回ご紹介しました遺伝子検査ですが、近年、条件に当てはまる方は全て保険適応で行うことが可能になりました。私たちは常に最新の医療情報をチェックしております。気になることがありましたら、いつでもご相談ください。

(乳腺外科 後藤 航)



患者さんの足を守る！

フットケアチームのご案内



フットケアチームカンファレンスの様子
様々な診療科が集まり、治療方針について定期的にカンファレンスを開催しています。

当院には「フットケアチーム」があり、糖尿病や動脈硬化などによって生じる様々な足疾患の治療を行っております。

具体的な症状としては足の潰瘍、壊疽(えそ)、間欠性跛行(はこう):[歩くと足が痛くなり休みながらではないと歩けない]などがあります。

これらの足疾患の治療は傷の処置や血流の評価、血行再建、痛みの治療、血糖値・血圧・脂質の治療、自宅でのフットケアなど多岐にわたります。そのため、当院では糖尿病内科、形成外科、循環器内科、放射線科、心臓血管外科、麻酔科、皮膚科、膠原病内科、看護部でフットケアチームを形成し、各部門が綿密に連携を取り合いながら、患者さんの足を守るための診療を行っております。そよ風39号でもフットケアチームについて紹介しましたが、その後はさらに参加診療科も増えて活動をさらに拡大中です。足の症状でお悩みの患者さんは、外来主治医を通してご相談ください。

(フットケアチーム(生活習慣病・糖尿病センター) 越智 章展)



医学生の外來診療参加型実習について

医学生は、臨床実習を始める前に公的化されたCBT(Computer Based Testing)とOSCE(Objective Structured Clinical Examination)と呼ばれる医師として必要な知識・技能・態度面を評価する共用試験を受験します。

この試験の合格をもって臨床実習生(医学)の資格が与えられ、指導医とともに診療チームの一員として臨床の現場に参加できるようになります。医学生は見学だけではなく、患者さんの診療に医師と一緒に参加することで、高い教育的効果が見込めます。特に、患者さんと良好なコミュニケーションを築き、適切に医療面接を行うことが重要である為、当院では外来診療参加型実習を行っています。指導医は常に患者さんの診療状況を把握しながら、医学生の実習を行っています。患者さんのご理解・ご協力なしには、未来の良医は育れません。ぜひとも実習へのご協力をお願いいたします。



外来診療参加型実習風景



(総合診療科[総合医学教育学] 福本 一夫)

乳がんの早期発見にむけて

乳がんを早期発見するためには、定期的に自己触診を行い、乳房の普段の状態を知っておくことが非常に大切です。しかし、小さながんや、乳房の深い所にあるがんは、触診だけではわからず、マンモグラフィや乳腺超音波検査を受けて初めて発見されることが多くあります。

当院の人間ドック施設MedCity21では、女性技師と乳腺専門医師がチームを組み、受診者の皆様おひとりおひとりを丁寧に検査し、乳がんの早期発見に取り組んでおります。

リピーターの方も非常に多く、当施設で乳がんと診断された方の約9割がご自身でしこりに気づかない段階の早期乳がんが発見されています。

当施設内では、フォローアップ外来や針生検も行っており、がん診断後に最短で当院の乳腺外科へのご紹介が可能です。

ぜひ皆様の乳房みはり番として私たちMedCity21乳腺チームを頼ってください。

(先端予防医療学/乳腺外科 田内 幸枝)



MedCity21乳腺チーム



シリーズ 第24回 ～専門看護師・認定看護師の活動について～

糖尿病看護
認定看護師

当院では、専門的な知識と視点を持つ専門看護師・認定看護師が協力しながら対応・活動しています。



世界糖尿病デー（11月14日）
通天閣のブルーライトアップ

糖尿病看護認定看護師は糖尿病ケアや管理の専門家です。血糖モニタリング、食事アドバイス、薬物管理、生活スタイルのサポートなどを提供し糖尿病患者さんの健康維持向上に努めています。また糖尿病関連の会議で看護師サイドの意見を出したり、糖尿病看護の啓発を行っています。地域活動として小児糖尿病患者のキャンプや世界糖尿病デーのイベントに参加することもあります。毎年11月14日には『世界糖尿病デー』として本院高層階から通天閣のブルーライトアップを見ることができます。

糖尿病の名称変更

—11月2日のうちに新たな病名を採る—

糖尿病の新呼称、
「ダイアベティス」が第1候補

糖尿病名称変更について 2023年9月
日本糖尿病学会・日本糖尿病協会発表



今、糖尿病のホットニュースとして日本糖尿病学会・日本糖尿病協会からの提案で名称変更の予定があります。今回は、糖尿病看護認定看護師としてコメントしましたが、数年後に私はダイアベティス看護認定看護師？などになっているかもしれません。

ぜひとも、糖尿病という病気を改めて考える機会としてください。

(糖尿病看護認定看護師 江尻 加奈子)





このたび乳腺外科の診療科部長（教授）を拝命いたしました柏木伸一郎と申します。乳がんは、世界で最も罹患される方が多いがんです。しかしながら、適切な治療により「救うことができる命の多いがん」でもあります。私たちは、科学的妥当性や合理性に基づいた適切な治療を提供しています。

当院では、乳がん治療に関わるすべての診療科が力を合わせ「乳がん診療チーム」を結成し、関西トップクラスの診療実績をもち『難治性乳がんの克服』を目指しています。「トリプルネガティブ乳がん」や「転移・再発乳がん」など、治療が難しいとされる乳がんの診療拠点となっています。



乳がん診療チームは、日々のカンファレンスで最善の治療について議論し、「質の高い手術」や「最先端の薬物療法」を実施しています。そして病状が思わしくない状態にあっても、決してあきらめない最善の治療を提案しています。「優しく頼れる乳腺外科医」として、乳がんで苦しむ患者さんを救いたいという気持ちを胸にチーム一丸となり鋭意努力を重ね、挑んでいます。

（乳腺外科 柏木 伸一郎）

◀乳がん診療チームのスタッフ

新たな診療体制の構築へ

ハイブリッド手術室をリニューアル！

ハイブリッド手術室とは外科医が行う外科手術室の機能と、内科医が血管造影検査に用いるX線撮影装置を組み合わせた手術室です。従来はカテーテル室と手術室は別々であったため、血管内治療と外科手術は別日もしくは別室にて行われていました。しかし、ハイブリッド手術室では先進的な手術を迅速かつ安全に実施でき、患者さんにとっては非常に有益な環境にできたといえます。

当院では、平成25年度からハイブリッド手術室の稼働が始まりました。当時は、清潔環境の整った本格的なハイブリッド手術室は国内でも少なく、当院は導入以来、大動脈ステントグラフト内挿術を施行する有数の施設として稼働してまいりました。

現在は、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）に代表される心臓弁のカテーテル的治療や不整脈治療などまで適応が拡大し、さらに、救急領域の塞栓術や脳血管、末梢血管に対する高度な医療技術にも対応できるようになりました。

このように複数の診療科でハイブリッド手術室を利用している病院は、全国的にも希少となっています。

今回リニューアルしたハイブリッド手術室のポイントは3つあります。

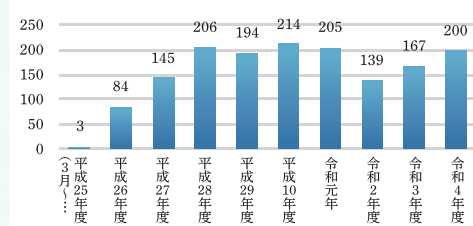
- 1 有効床面積が約80㎡（国の施設基準は60㎡以上推奨）と広く、人工心肺装置や補助循環装置などの大型機器を設置しても十分な広さを確保できます。
- 2 天吊り大型モニタを2台配備したことで、手技を担当する執刀医師のほか、麻酔科医、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師など多職種が手術の進行状況をこれまで以上に確認しやすくなり、手術室における更なる安全性の向上にも繋がっています。
- 3 患者さんの放射線被ばく線量数値を視覚的に確認できるようになり、より安全で身体に負担の少ない治療が可能となりました。

中央手術部では、患者さんの負担を軽減し、安心して手術を受けられる体制を整えております。ご質問などございましたら、お気軽にお尋ねください。

（中央手術部 定 亮志）



ハイブリッド手術件数推移



【令和4（2022）年度内訳】

循環器内科：147件（TAVI、経皮的僧帽弁接合不全修復術、経皮的左心閉鎖術）
心臓血管外科：37件（大動脈ステントグラフト内挿術、末梢血管）
女性診療科：6件（癒着胎盤に対する帝王切開術）
脳神経外科：5件（頸椎固定）
整形外科：2件（母指関節手術）
肝胆脾外科：2件
消化器外科：1件